HIROSHIMA APPEALS 2015

佐藤卓　Taku Satoh

「ヒロシマという重石」

　戦後生まれの「ヒロシマ・アピールズ」ポスター制作者は、私で４人目です。どのようなビジュアルにするべきか、想像以上に悩みました。そして覚悟を決めて選択したビジュアルが、この書類の上に大きな分銅が載っているというものです。分銅は、もともと天秤に掛けるための物。広島はかつて、天秤に掛けられ、原爆を落とされました。落とす側には理屈があります。この広島という分銅が、このビジュアルでは書類の上に載る大きな重石になっています。書類はあらゆる「理屈」を象徴していて、分銅が理屈の重石になっている。どんな理屈があろうが、やってはいけないことがある、ということを表現したつもりです。そして、分銅の肩に一匹の蝶がとまっています。これは、第１回の亀倉雄策さんのポスターに表現されている傷ついた蝶の生まれ変わりとして表現しました。